平成２７年度　第３回東部地区幼稚園教員・保育士等の合同研修会

「気がかりな子どもの理解と支援のあり方 ～一人一人を大切にした保育をめざして～」

日時：平成２７年１１月２日（月）場所：福祉人材研修センター

【研修講師】　広島文教女子大学　教授　李木　明徳　氏

【ねらい】
　特別な支援を必要とする子どもについての発達の理解を深めるとともに、具体的支援のあり方について学ぶ。

【研修の様子】

1　特性に応じた対応が求められている

子どもたちが描いた絵から、発達の特徴を理解することができます。

○自閉症スペクトラムの特性があると考えられる場合
- 主語と述語を付け、省略をしない完全な文章で伝える。
- 抽象的な言い方は避け、具体的な表現をする。
- 一時に一事を基本とする。

○注意欠陥・多動性障害の特性があると考えられる場合
- 刺激となるものを整理する。　　・見通しを示す。
- 体を動かす活動を取り入れる。
- 何をしたかったのかを確かめ、正しいやり方を教えていく。

○環境を調整する
- 気が散らない部屋作り、安心して過ごせる部屋作りをする。
- 間違った行動を叱責するのではなく、正しい行動を教える。
  →正しい行動を示す文章や図を示し、失敗したときには気付かせる。
  できたら認める。（自己有用感を育てる）

自己有用感とは・・・人の役に立った、人から感謝された、人から認められたという感情。
「認められて（自信を持って）育つ」と、子どもの自信が持続しやすい。

○支援の基本的な考え方
- 「こうしたらうまくできた」という経験を提供する。
- 「たとえ失敗しても、それは対処できる」という経験を提供する。
- 得意なことを十分に保障し、不得意なことに苦手意識を抱かせないような経験を提供する。

2　＜演習＞普段行っている「合理的配慮」についての情報交換

合理的配慮とは・・・
障がいのある人の社会的壁を取り除くために必要な便宜のことで、過度な負担のないもの。

普段行っている援助の中に合理的配慮がたくさんあるんだね。

合理的配慮を意識して行うことで、一般化することができ、他の場面や保護者対応へ活用できます。

3　子どもの育ちを理解する～個の育ち、集団の育ち～

○個の成長と集団の成長は相関関係にある。
　→個の成長が集団の成長に関わり、集団における活動が個の成長を促す

【参加者の感想】

○気がかりな子どもだけに目を向けるのではなく、どこにつまずきがあるのかしっかりと理解した上で、集団全体が高まっていくことが大切であることを学んだ。

○特別支援教育では、担任一人ではなく共通理解のもと、組織全体で取り組んでいくことが重要だということが改めて分かった。

○保育でも子育てでも「認めて育てる」ということをしていきたい。「いいよやってごらん」「失敗したらまた考えよう」という姿勢で、子どもの気持ちを受け止め、認めていきたい。

○間違った行動を叱責するのではなく、正しい行動を教えるということを心がけていきたい。

○合理的配慮とは、みんなが同じ土俵に立つための手だてだと知り、改めてその大切さを感じた。まずは、一人一人が落ち着いて生活できる環境を整えていくことで、個の成長を促すとともに集団としても高まるようにしていきたい。

子どもたちの笑顔が見られる保育をめざして・・・